

第16次 いわき市水道事業経営審議会（第8回）議事録

1 日 時 平成31年3月7日（木） 午後3時～午後4時35分

2 場 所 水道局3階 第1会議室

3 出席者

(1) 委員 (出席：12名)

阿部健一、伊藤幸恵、岩崎楨子、小野卓也、上遠野和村、鈴木俊彦
高橋孝光、長谷山信一、福迫昌之、古川広子、俣田真志、吉田恭子

(欠席：3名)

石山伯夫、佐久間幸子、吉田裕一

※ 50音順・敬称略

(2) 事務局 木村管理者、上遠野局長、志賀次長、大津総務課長、佐藤経営企画課長
黒羽営業課長、則政配水課長、永山工務課長、本村浄水課長
横田南部工事事務所長

○ 経営企画課

須藤課長補佐、盛企画係長、相田財政係長

企画係〔稲村、高木、新井、吉田〕

4 会議形式 公開

5 傍聴者 0名

6 会議次第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

ア 前回の議事録について

イ 水道料金のしくみと課題

(4) その他

(5) 閉会

7 審議事項（審議要旨）

(1) 前回の議事録について

前回（第7回）の議事録が了承された。

(2) 水道料金のしくみと課題

<事務局説明>

資料12 水道料金のしくみと課題について説明を行った。

○ 委員から、「いわき市は、類似団体や県内主要都市との比較で、水道料金が高く、逡増度は低くなっているが、関連性があるのか。」との質問があり、事務局から、「逡増度の計算については、基本料金と10 m³までの水量料金を合わせたもので比較しており、基本料金が他の事業体に比べ若干高いため、逡増度は低くなるが、水道料金そのものについては高い状況となっている。」との回答があった。

○ 委員から、「水道事業を安定的に経営していくためには、一般家庭の負担が増えることとなるものの、基本的には水量料金に配分している固定費部分を基本料金に配分し、基本料金の割合を高めざるを得ないということだが、今回の審議会で固定費をどこま

で基本料金に負担させるのかということを探ることになるのか。」との質問があり、事務局から、「今回の審議会では具体的な料金改定の審議ではなく、基本料金の配分を増やすのか又は維持するのかなどを審議していただければと考えている。」との回答があった。

- 委員から、「大口需要者の水需要の減少に対応するため基本料金の割合を増やすということだが、このような料金体系にすることによって、離れた水需要を戻すこと又は新たな水需要を掘り起こすことを想定しているのか。」との質問があり、事務局から、「現状では、大口需要者を含め全体的に使用水量が減少しているため、まずはどのようにして安定的に料金を回収できるのかが大事であると考えている。また、逡増の度合いを下げることで大口需要者の水需要を回復できるような効果もあると思うので、そのことも含めながら水道料金制度を検討すべきであると考えている。」との回答があった。
- 委員から、「節水は環境に良いことであると思われるが、水道事業にとっては節水により経営が厳しくなることから、節水に対していわき市はどのような立ち位置になるのか。」との質問があり、事務局からは、「今の水道事業は節水を呼びかけながらも水道の使用を促すというジレンマがあるが、いわき市でも、ペットボトル水を作り、水のおいしさのPRをするなどして水の飲用を促しながらも、環境の面から節水を呼びかけるという両面からの取組を行っていきたいと考えている。」との回答があった。
- 委員から、「いわき市を含めた他の事業体でも、今よりもたくさんの水道水を浄水・配水できる能力があり、最大限に稼働できれば1 m³当たりの費用は下がるが、現在では余力が大きくなっている状況にある。今後、節水機器への更新や、戸建て住宅からマンション等への移動が進むことで庭への水まきを行わなくなったりすることなどにより、有収水量は落ち込んでしまう。一方、地下水の利用や工業用水への切り替えをした需要者は予備力として水道の契約はそのままになるため、施設を縮小してしまうといざというとき水道水の供給ができるのかということが課題になっている。」との意見があった。
- 委員から、「第16次審議会では、基本料金と水量料金の配分の割合などの水道料金制度に関して方向性をまとめて、あとはアセットマネジメントの精度を高め料金改定時期を見極めながら、水道料金を専門的に取り扱う検討委員会を設置するなどして細かい検討をしてもらうほうが良い。」との意見があった。
- 委員から、「今後の水道事業の経営を考えるうえで、いわき市が今後どのようなまちづくりを目指すかということも影響があると思う。いわき市で都市部に人口を集中させて街全体をコンパクトにする方向性が合意できているなかで、水道事業もそれに合わせて現在の水道施設を縮小するような考えもでてくると思われるが、いわき市のまちづくりと水道局の方向性はどのような関係にあるのか。」との質問があり、事務局から、「現状では、いわき市のまちづくりの方向性に合わせて水道局も今後どのような方向性でいくのかを考えているところであり、まだ方向性は決まっていない。」との回答があった。
- 委員から、「コンパクトシティに合わせて水道施設も街中に集中させるという考え方もあるが、農業や林業などに従事している人は山間部等に残らざるを得ないため、管路延長を減らすことができない。端から順に人口が減れば良いが、それがうまくいか

ないのが今の日本の現状である。」との意見があった。

- 委員から、「バランスの取れた方向に向かって、水道料金の問題を考えてはどうか。」との意見があった。
- 委員から、「水道料金の引き下げを行った水道事業体の中で健全な経営がなされているところは極少数であり、水道料金の引き下げは水道事業体のためにならないというデータが示されている。今回の水道法改正では、水道施設の更新費用を含む収支見通しを公表するように努めなければならないとされ、現行の料金水準が何年もつのか、また、いつ頃資金不足が生じるのかについて明白になる。水道料金の引き下げを行った事業体が、それらを踏まえたうえで水道料金の引き下げを行っているのであれば良いが、いわき市もそこを良く見極めた方が良い。」との意見があった。
- 委員から、「いわき市は、水道料金は類似団体や県内主要都市と比較して高い状況にあるが、東北の中では雪も降らず夏は涼しく、水道光熱費全体で見れば魅力的な都市なので、このような魅力をPRすることにより企業誘致を図ってはどうか。」との意見があった。
- 委員から、「国内だけではなく海外の水道料金体系の事例も参考になるかもしれないので、例えば日本より広大なアメリカやオーストラリア、中国についても調べてはどうか。」との意見があった。
- 水道料金のしくみと課題について、次のとおり意見等の確認を行った。
 - ・ 基本料金の割合を高めることは固定費の回収につながり、水道事業の経営が安定する。
 - ・ 基本料金の割合を高めると使用水量が少ない使用者の水道料金が高くなるということについても、配慮した検討が必要である。
 - ・ 第16次審議会において、水道料金の見直しの方向性について見いださなければいけない。

(3) その他

- 第9回審議会について（詳細は別途通知）
 - ・ 日 時 7月中旬頃の予定
 - ・ 内 容 水道料金制度のしくみと課題について（続き）
平成30年度水道事業決算について

8 閉会